

# 秋植球根類の植込み方

## 植込みの時期

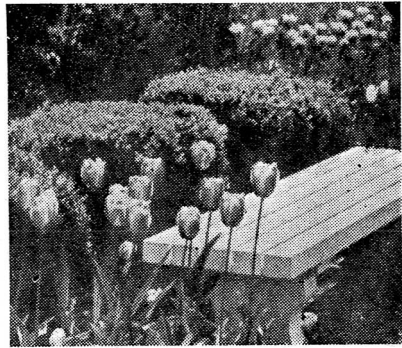
早春から夏にかけて咲く秋植球根類は、球の根が伸長後一定期間低温に遭つてから暖かな春になり、茎葉を伸ばし開花するものである。植込み時期は種類によつて多少の早晚はあるが、冬になる以前に発根させることが必要である。家庭でクローカス、ヒヤシンス等を鉢植して屋内で早く咲かせる場合でも、必ず鉢植のまま屋外に置き強い霜に遭わせてから室内に入れる。

北海道では早いものは八月中旬に始まりおそいものは十月上旬に植込みするが、多くは九月中下旬が適期である。水仙は地温が高くとも根が伸びるから八月中に植込むと結果が良く、おくれるにつれて翌年の生育が劣つて来る。また百合中でもひめ、すかしの系統は水仙と同様に、根の伸長速度が鈍いから早植えて十分根張らせる。チューリップ、イリス類は比較的小さく植込んでも差支えない。

## 植込みの方法

球根の栽培距離は同一種でも、球の大小またはその目的により異なるが、下表は球根生産の場合における成球の標準であるから一般には切花または花壇等は株間を狭くする。

覆土は圃場の土質により、軽い土、乾燥し易い土地の場合は標準よりやや深くし、重粘質または多湿の処は薄くするのが普通



である。植込みが浅過ぎると地上部の生育が劣り分球が多くなる。逆に深過ぎれば生育がおくれ萌芽困難となる場合も生じて来る。

積雪少なく土壤の凍結のかなり烈しい地帯では冬期間覆土を厚くして置き、翌春三月上旬頃に標準程度に薄くするか、あるいは枯葉や敷葉等で床面を被覆する。これは府県産系統の百合、球根アイリス等は特に必要である。

植込みは普通方形の平床植とする。草丈の高い鹿の子百合等ではこの床植の他に畦幅一尺五寸株間五寸の一条植とする場合もある。

球根は芽を真直ぐ上方に向けて丁寧に植込むことが大切である。大栽培の場合は普通床幅二尺〜三尺とし、床間一尺をとり通

路とする。植込むには床の両側に土を上げて予め準備してある畑に球根を軽く押しつけるようにし適宜の間隔に並べて覆土するか、或は整地した床面に前記のように球根を配置して、通路にかがみながら片手の指先または移植鋤を持ち穴をあけ、他の片手でその穴に球根を入れて埋める。この場合穴の深さを一定にすることは勿論であるが、植込後は鋤等で強く庄して球根の安定させる必要がある。

## 植込畑の準備

球根を植込みする畑地は、日当たりがよく、やや軽く排水の良好なところを選ぶ。畑地は十分深耕して土中の石その他を取除き、適宜の床巾にして深さ〇・八〜一尺ぐらい掘下げ、腐熟堆肥等の基肥を施し、よく混和してその上に直接肥料が球根に触れないやうに五寸ぐらい真土を入れて球根を植込む。

また乾燥肥料を用いる時は床全体に撒布して、十分鋤き込んでから植込む。

施肥量は坪当大体次のようなものである  
油粕五〇匁、魚粕五〇匁、葉灰二二〇匁  
(あるいは加里一五匁、過磷酸石灰二〇匁、乾燥肥料ならば二〜二・五升、葉灰二二〇匁(加里一五匁) 過磷酸石灰二〇匁。

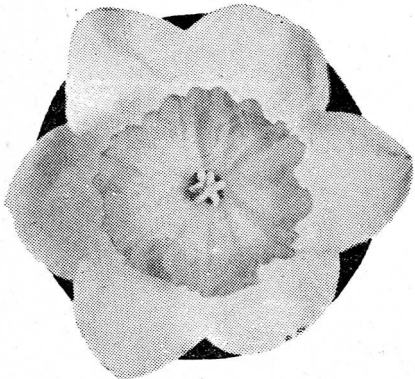
乾燥肥料の作り方は左記の通りである。

魚粕七升、米糠二升、葉灰二升、土一斗を調合し、水を注いで良く混ぜて均等に湿らせた後、箱などに入れ密閉醗酵させ、二週間位を経てさらに水を注ぎ、握られる程度によくかき混ぜて前と同様にし、一カ

月ぐらい経過して完全に醗酵が終つたならばこれを貯蔵して置く。醗酵の際にうじの発生せぬようBHC粉剤を撒布する。

種類	植込みの深さ	球根間の距離
クロツカス	一五倍	二〜三寸
ヒヤシンス	二〜五倍	四〜五寸
すいせん	一五倍	五寸
チューリップ	二〜五倍	四〜五寸
黒百合	二〇倍	三〜四寸
アネモネ	二〜五倍	三〜四寸
イリス類	二〜五倍	三〜四寸
ひめゆり	一〇倍	二寸
てっぽうゆり	一五倍	五〜六寸
すかしゆり	二〇倍	八〜一〇寸
かこのこゆり	二〇倍	八〜一〇寸
秋植ケラ	一五倍	三〜四寸

註 植込みの深さとあるは球の高さに對する覆土の厚さ



水仙セルマラガロフ